



好調な米企業決算などに支えられて反発

ポイント



1. 2026年8月の米国ハイ・イールド債券市場概況
2. 利回りやスプレッドの状況、および、デフォルト動向
3. 今後の経済・市場見通し

1. 2026年8月の米国ハイ・イールド債券市場概況

8月の米国ハイ・イールド債券は反発

8月末の米国ハイ・イールド債券の利回りは7.23%と前月末比で0.19%低下し（価格は上昇）、リターンは前月末比で0.99%上昇しました。米5年国債利回りは前月末比で0.07%上昇して4.50%となり、対米5年国債スプレッドは2.73%と前月末比で0.26%縮小しました。

8月は、堅調なAI（人工知能）関連投資などを背景に、好調な米企業決算報告や業績見通しに支えられ、米株式市場が堅調に推移しました。米国債利回りは若干上昇しましたが、米国ハイ・イールド債券の利回りはスプレッド縮小によって低下、リターンもプラスとなりました。

B格カテゴリーが優勢

格付別の月間リターンは、BB格+0.98%、B格+1.08%、CCC格以下+0.70%となり、B格カテゴリーが優勢でした。セクター別月間リターンでは、放送+1.96%、エンターテインメント+1.94%、テクノロジー+1.58%が上位3業種で、製紙▲11.92%（一部発行体の債券が決算発表を契機に急落した影響）、保険+0.20%、通信+0.28%が下位3業種でした。

米国ハイ・イールド債券市場の動向



	リターン		利回り	
	8月	年初来	8月	前月比
米国ハイ・イールド債券指数（全体）	0.99%	2.60%	7.23%	-0.19%
格付別				
BB格	0.98%	2.47%	6.15%	-0.18%
B格	1.08%	3.54%	7.29%	-0.29%
CCC格以下	0.70%	0.69%	14.30%	0.12%
セクター別				
放送	1.96%	2.10%		
エンターテインメント	1.94%	6.46%		
テクノロジー	1.58%	2.04%		
通信	0.28%	0.54%		
保険	0.20%	0.35%		
製紙	-11.92%	-18.76%		
米国債（5年）	0.03%	-0.78%	4.50%	0.07%
米国債（10年）	0.15%	-1.55%	4.75%	0.04%

時点：2026年8月末時点、米ドルベース

・セクターについては、8月リターンの上位3業種と下位3業種をあげています。
・使用している指数については、P4をご参照ください。

（出所）ICE、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2. 利回りやスプレッドの状況、および、デフォルト動向

利回りやスプレッドの状況

8月末時点で、米国ハイ・イールド債券の利回りは7.23%と前月末比で0.19%低下しました（右上図）。8月は、AI関連投資などを背景に、好調な米企業決算報告や先々の堅調な業績見通しが示されたことを好感し、米株式市場が上昇しました。米国債利回りは若干上昇したものの、堅調な企業業績や米株式市場の上昇が投資家センチメントの支えとなり、米国ハイ・イールド債券の利回りは低下しました。

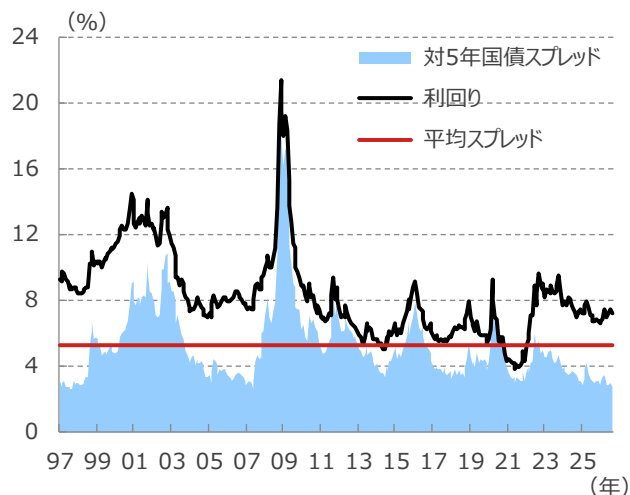
対5年国債スプレッドは2.73%となり、前月末から0.26%縮小しました（右上図）。好調な企業業績に加え、米労働市場の安定が確認されたことなども支えとなり、スプレッドは縮小しました。なお、スプレッド水準は過去平均（5.27%）を引き続き下回っています。

デフォルト（債務不履行）動向

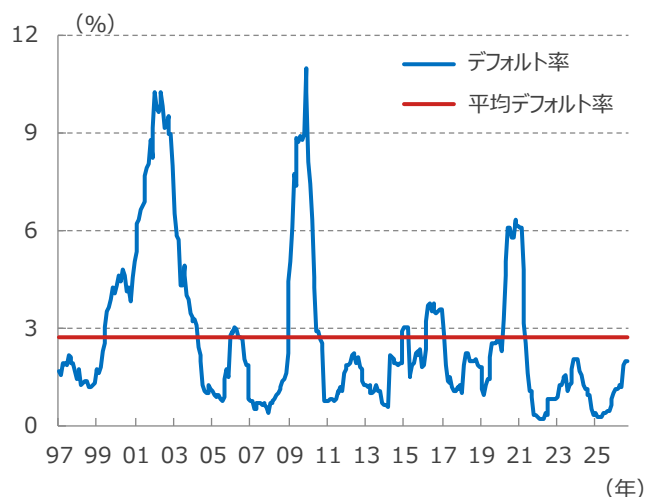
8月末のデフォルト率（金額ベース）は1.98%と、前月末とほぼ同水準でした（右下図）。米国ハイ・イールド債券市場では8月に1件のデフォルト（衛星インターネットサービス関連企業）が発生し、金額は約15億米ドルでした。

今後のデフォルト率については、引き続き大きく上昇する状況ではないと考えられます。中東情勢が再び緊張度を高めている影響で原油相場が再上昇しており、今後のインフレ動向への懸念は残ります。一方で、旺盛なAI関連投資などを背景に米企業業績が堅調に推移していることは、米経済を引き続き支えることが期待されます。また、米労働市場も落ち着いた状況を保っており、景気を下支えるものと見られます。このような状況下では、デフォルト率の大幅な上昇は避けられると考えています。

米国ハイ・イールド債券の利回り、スプレッドの推移



米国ハイ・イールド債券のデフォルト率の推移



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

3. 今後の経済・市場見通し

米物価動向は川上/川下で強弱感に差がある

米物価動向を、物価の基調的な動きを示すとされるコア指数で見ると、川上に位置するコアPPIが前年同月比+4%台半ばで高止まっている一方、川下に位置するコアCPIは2%台半ばで落ち着いている様子がうかがえ、川上と川下で強弱感に差があります（右上図）。足元では、中東情勢が再び緊張度を高めており、原油相場が再度大きく上昇するなど、川上分野の物価動向には今後も上昇圧力が高まることが予想されます。過去は川上の物価動向が時間差をもって川下に波及する傾向があったことから、現状の川上の物価上昇が川下に波及していくか否かが注目され、当面は予測を許さない状況が続くと考えられます。

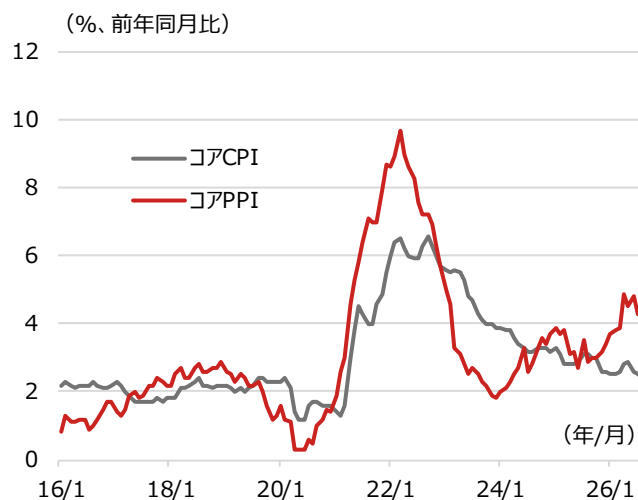
米利上げ観測が高まり、長期金利が上昇

川上分野の物価に上昇圧力がかかっていることから、金利先物市場が織り込む今後のFFレートについては、来年（27年）前半にかけて3回程度の利上げ（1回あたり0.25%）が行なわれる予想となっており、足元で利上げ観測が高まっています（9月11日時点、右下図）。また、米財政赤字、AI関連企業などによる巨額資金調達への警戒、そして、ウォーシュ新議長体制下のFRB（米連邦準備制度理事会）の運営の不確実性などの複数の要因から、米10年国債利回りもほぼ5%の水準まで上昇しています。

米利上げ観測や米長期金利の上昇などは、米国ハイ・イールド債券にとってネガティブな要素ですが、一方で、好調な米企業業績や堅調な米労働市場はポジティブな要素であり、今後の行方は引き続きこれら両者の綱引きとなることが予想されます。以上のような環境においては、7%台の利回りである米国ハイ・イールド債券は魅力的な市場であると考えます。

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

米コアCPI、コアPPIの推移



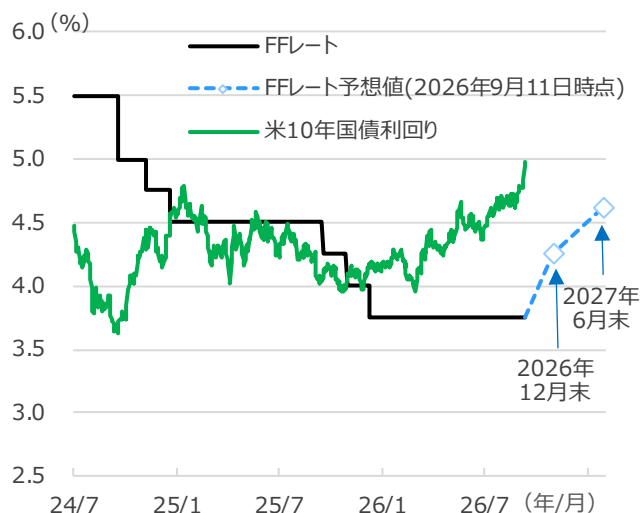
期間：2016年1月～2026年8月、月次

・CPI：消費者物価指数、PPI：生産者物価指数

・コア物価指数：変動が激しい食料品とエネルギーを除いたベース

（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

FFレート、先物によるFFレートの 2026年12月末、27年6月末の予想値、 及び、米10年国債利回りの推移



期間：2024年7月1日～2026年9月11日、日次

・FFレート：FF金利誘導目標上限値

・FFレート予想値：FFレート先物市場から算出した2026年12月末、27年6月末のFFレート予想値（上限値）

・使用している指数については、P4をご参照ください。

（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

＜当資料で使用した指数について＞

米国ハイ・イールド債券指数(全体) : ICE BofA U.S. High Yield Constrained Index

米国ハイ・イールド債券指数(BB格) : ICE BofA U.S. High Yield BB Rated Constrained Index

米国ハイ・イールド債券指数(B格) : ICE BofA U.S. High Yield B Rated Constrained Index

米国ハイ・イールド債券指数(CCC格以下) : ICE BofA U.S. High Yield CCC and Lower Rated Constrained Index

米国ハイ・イールド債券指数(各セクター指数) : ICE BofA U.S. High Yield Indexの各セクター指数

米国債券 : ICE BofA Current 5/10-Year US Treasury Index

＜当資料で使用した指数の著作権等について＞

- 「ICE BofA U.S. High Yield Constrained Index SM/®」、「ICE BofA U.S. High Yield BB Rated Constrained Index SM/®」、「ICE BofA U.S. High Yield B Rated Constrained Index SM/®」、「ICE BofA U.S. High Yield CCC and Lower Rated Constrained Index SM/®」、「ICE BofA U.S. High Yield Index SM/®」、「ICE BofA Current 5/10-Year US Treasury Index SM/®」は、ICE Data Indices, LLCまたはその関連会社の登録商標です。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2026年9月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家がその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください、ご自身でご判断下さい。